

株式会社ディーエス・マルマン

[事業実施テーマ]

オフィス廃棄書類等を利用した新しいリサイクル緩衝材の自動製造機の開発

企業紹介



取材風景（佐野社長中央、佐野常務左側、松本課長右側）

4つの専門からなる機密文書サービスを提案します

当社は昭和26年廃棄紙のリサイクル加工販売を主たる事業として創業し、平成2年に株式会社ディーエス・マルマンを設立、日本で初めてオフィスの廃棄書類回収リサイクルを始めた会社である。「紙の町」富士市においても、多くの紙リサイクル業者が創業・淘汰される中、創業66年の歴史を持ち、クラウドサービスやスマートフォンアプリなどのIT技術を利用した廃棄書類回収・処理サービスを開発するなど、業界の中では顧客のニーズに応えた革新的な事業に常に取り組んでいる。

当社は、お客様からお預かりした大切な機密文書を最後まで責任を持って処理をする会社であり、「一度の失敗も許されない会社」であることを社員一同常に自覚し業務に取り組んでいる。また、4つの専門からなるサービス①専用容器での回収②専任の担当者③専用の回収車両④専門による抹消処理を展開し、お客様の情報セキュリティ対策と環境保全の両方を提案している。

取り組みの経緯



生産者出荷時の「メローム」を用いたメロン梱包例

生産者の梱包効率を向上させた紙緩衝材の提供

当社の他の業務のうち、紙加工時に出る廃棄紙を活用した紙緩衝材「メローム」を約20年前に開発し、製造している。これはメロンの箱詰め時のクッション材で、それまで使用されていた「木毛」の代替品となり、生産者の梱包作業の効率を飛躍的に向上させ、ゴミの減量化による環境に配慮し、顧客からも企業価値向上に貢献するものであると高い評価を得ている。これらの事業はISO14001（環境）、ISO27001（情報）の取得継続によりさらに信頼性を得ている。

しかし近年、紙緩衝材「メローム」の製造販売事業は、メロンの生産量減少に伴い、売上の減少が顕著になってきている。また、オフィス廃棄書類リサイクル事業も、回収量及び売上は横ばい状態であり、今後は、紙の処理単価下落が予測され、売上の減少が危惧されている。また、回収した廃棄書類は、付加価値のついた有効活用がなされていない状況である。この状況を放置しておけば、紙緩衝材「メローム」の製造販売事業、廃棄書類リサイクル事業は共に、売上減少により継続が厳しくなる恐れがある。

[会社概要]

- 代表者名／代表取締役社長 佐野正樹
- 所在地／〒416-0947 富士市宮下114-9
- 取材地／同所在地
- 設立年月／平成2年9月
- 資本金／10,000,000円
- TEL／0545-61-2823
- URL／<http://www.ds-maruman.com/>



取り組みの内容



新しい紙緩衝材の自動製造設備を開発

リサイクル紙と紙緩衝材製造ノウハウの融合

本事業の実施にあたり、リサイクル紙を緩衝材の内容物として利用した、新しい紙緩衝材の自動製造設備を開発・導入することとなった。

この製造設備は、紙チップ梱包に適した縦型包装機で、緩衝効果の高い機能紙をストレートに裁断するシュレッダーユニットを備え、マイクロカットしたリサイクル紙とブレンドし、コンベアで搬送され包装機にてパッキングするものである。

製造設備開発でのいくつかの課題について、内容物の紙・形状、機能紙の裁断方法、粉塵対策、封入方法、緩衝材の搬出方法などが出てきたが、機械装置の仕様検討、製作を進め、機械メーカーとの試運転において解決することができた。

当社で、クッション性と見た目の良質さを兼ね揃えた緩衝材を製造することを確認し、製造工程を確立した。

結果



新しい紙緩衝材の製品例

新しい用途と販売先へ！ さらなる製造コストダウンを目指す

今回の新しい紙緩衝材の自動製造設備の開発により、当社で破砕加工し紙原料として安価で販売していた損紙及びリサイクル紙を、新たに緩衝材として価値を高めて販売することができるようになった。

また、従来の緩衝材に比べ、見た目とクッション性の質が高まったこと、サイズや比重もセンサーで調整できるようになりバリエーションが増えたことで用途も拡大した。

メロン向けの緩衝材の他、他の緩衝材部門の販売先として、機械部品、化粧品、通信販売などの分野にも進出することを見込んでいます。

作業環境も改善され、いくつかの工程を一か所に集約したことで、動力費、製造に係る人件費が削減され、他の仕事へ従事することも可能となった。

今後の製造部門では、女性の活用をより高め、高齢者や障害のある人の雇用についても積極的に取り組み、環境に配慮した企業として地域貢献にも力を入れていきます。